



令和6年12月6日
杉並区総務部広報課

近衛文麿が着用した大礼服を再現して

てきがいそう

荻外荘で展示します！

国指定史跡「荻外荘」の復原整備プロジェクトに伴い、近衛文麿が着用した大礼服の複製品を製作し、12月9日(月)の開園に合わせ荻外荘の蔵で一般公開を始めます。

荻外荘(荻窪2-43-36)は、昭和戦前期に首相を務めた政治家・近衛文麿の旧宅で、国の史跡です。「貴重な建物とみどりを保存して欲しい」という地域の声を契機として、その半分が移築された経緯もある建物を近衛文麿居住当時のかたちに戻し、庭園も段階的に往時の姿に再現するという、約10年にわたる取組を経て、荻外荘は創建の地・荻窪で再び歴史を刻み始めます。

大礼服は、明治5(1872)年に明治政府が制定し、戦後の昭和29(1954)年に廃止された、国による洋式の最高礼服です。着用者は皇族・華族・官僚・有位者で、それぞれ異なる大礼服の形式が定められていました。

この度区が製作したのは、華族が用いた有爵者大礼服(公爵)の複製品です。

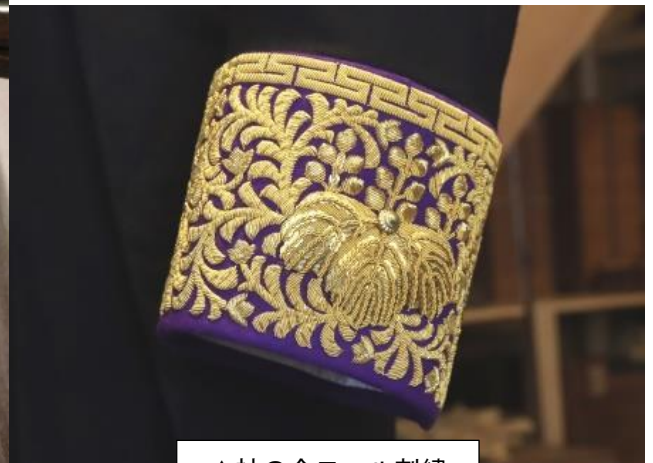
有爵者大礼服には爵位別の色分けがあり、公爵であった近衛文麿は襟と袖が紫色のものを着用しました。近衛の大礼服は、^{けんしやう}肩章の^{かさ}総が細いという特徴があります。また、華やかな細い金モール刺繍は大礼服の見どころです。

大礼服は、日中戦争をきっかけとして、昭和13(1938)年に着用が停止された後は、公式に用いられることがないまま廃止となり、現在まで約80年間新たに製作されることはなく、必要な材料やその製法、製作に必要な技術を持った職人も失われてしまいました。

そのような中、今回の製作では、戦前に大礼服を製作していた洋服店の仕立職人^{はっとり}服部^{すすむ}晋氏や、数少ない金モール刺繍職人^{つじ}辻^{あきら}章氏を探し出し、今年のNHK朝ドラ「虎に翼」で法服などの制服考証もされ、大礼服についても詳しい日本大学商学部教授^{おさかべ}刑部^{よしのり}芳則氏の製作監修のもと、当時の大礼服の再現を行うことができました。

職人の方々はそれぞれ90歳近いご高齢ですが、これまでの経験と子供の頃に親の作業を見ていた記憶を頼りに試行錯誤しながら当時の大礼服を見事に再現しました。

近代日本の歴史を彩り、現代では貴重となった技術を用いながら製作された大礼服を是非ご覧ください。



【荻外荘公園】

〒167-0051 杉並区荻窪2丁目43番36号

電話：03-6383-5711（12月9日午前9時開通）

利用時間：午前9時から午後5時（最終入園午後4時30分）

休園日：水曜日、年末年始（12月29日から1月1日）

ただし、令和6年12月11日、18日（一部）、25日の水曜日は開園。

観覧券：一般300円、小・中学生150円

団体（20名以上）：一般250円、小・中学生100円

年間観覧券：一般1,200円、小・中学生600円

障害者手帳、デジタル障害者手帳ミライロID等をお持ちの方は、本人と
介護者1名は入館無料

※荻外荘南側の芝生広場は無料です。

【報道機関 問い合わせ先】

生涯学習推進課文化財係：03-3312-2111 内線1667

広報課報道係：03-3312-2111 内線1502